



清友

No. 21

2011年5月

東京清掃労働組合退職者会

〒102-0072 千代田区飯田橋3-9-3 SKプラザ4F

TEL 03 (3237) 9995 FAX 03 (3237) 4541

渡辺会長あいさつ

福島第一原発の事故により、原発見直しの必要性がはっきりしてきました。現時点での世論は現状維持がやや多数ですが、原発は廃止するべきです。



清掃退職者会は再建後4年目に入りました。会員拡大を目標にしてきましたが、残念ながら不十分です。今後、さらなる努力が必要です。

年金・医療・介護の3点を運動の柱にしてきました。しかし、十分には改善されていません。今年も重点課題に据えて取組みを進めます。

延期した春のウォーキングや秋の旅行も行いたいと考えています。「現・退」一致の立場からの運動を強めるとともに、楽しく有意義な会にするため、会員の方のご協力をお願いいたします。

第4回退職者会総会

社会保障の拡充と現役支援を両輪に運動を進めよう!



鈴木副会長

4月18日、第4回定期総会をSKホールで開催しました。

会員29名が参加。鈴木副会長の司会で開会し、総会議長に山岸治美さんを選出しました。渡辺会長は会長挨拶に先立ち、3月11日に発生した東日本大震災の被災者を悼み黙とうすることを発案。参加者一同黙とうを捧げました。来賓として参加した東京清掃西川委員長は、「退職者会の会員は再建当時より約2倍に

なったが、まだまだ少ない。会員拡大は現役世代の責任だと自覚して取組みを進める。東京清掃は東日本大震災の復旧支援を行うよう23区区長へ強く申し入れた。清掃局・東京清掃一丸となって支援した95年の阪神淡路大震災当時と違い、23区は統一の対応ができていない。04年の中越地震の経験を踏まえ、民間委託では災害復旧対策を行えないことを区長会へ提言したが、これも活かされていない。原発は自民党政権が国策として進めてきた。東京清掃は反原発の運動を強める。」と決意を込めて挨拶しました。上部団体と各単会を代表し、自治退都本部浅沼会長、都庁退連合花輪会長から挨拶をいただきました。



花輪都庁退会長



浅川都本部長



西川委員長

※2面へ続く



被災地の瓦礫処理や原発事故による避難など、協力が必要。自治退の課題である組織拡大は、再任用・再雇用期間の対応が課題だ。都本部は未加盟組織の組織化を促進する。会員拡大へ向けて協力願いたい。現・退一致の取組みを強化し、年金・医療・介護制度改善の取組みを進める。」、花輪会長からは、「会員拡大は組織の力になる。何としても達成したい。清掃事業が各区バラバラになり、清掃工場の水銀問題が起きた。一体的廃棄物処理体制を求めていきたい。」とエールを送りました。」と続いて議事に移り、昨年4

今回の総会には特に議論になる課題はありませんでしたが、総会終了後の懇親会では、東日本大震災被災地救援のこと、原発のこと、高齢者福祉制度の問題点や、会員拡大の取組み、23区職員研修所講師差別発言事件など東京清掃の課題もまじえ、ビールの泡を飛ばしながら喧々諤々の議論が沸騰。
このかつ達さを維持していることが元気の秘訣なのでしょう。

月の第3回定期総会以降の経過を庄司事務局長、会計決算を戸枝会計、会計監査結果を岩淵監査が報告しました。主な経過はこれまで本紙で報告してきたとおりです。
総会議案は、活動方針案を戸張副会長、会計予算案を戸枝会計、規約改正案を庄司事務局長が提案、それぞれ満場一致確認されました。



総会終了後は楽しく懇親会

東日本大震災被災者救援カンパ 34,000円被災地へ

4月18日の第4回定期総会参加者よりカンパ2万9千円が寄せられ、総会終了後、庄司事務局長から西川委員長へ贈呈しました。その後、会員より5千円の振込みがあり、カンパ総額は3万4千円になりました。ありがとうございました。ありがとうございました。



●「臨時・非常勤職員の処遇改善、雇用安定へ向けた法改正を求める署名」に、現時点で41名195筆のご協力をいただきました。ありがとうございます。最終締切りは5月末です。
●辻 芳徳さん(豊島工場)が会に入し、会員は62名になりました。

退職者会活動日誌

- 4月1日の第7回幹事会以降5月13日の11年度第1回三役会までの活動。
- ▼ 4月15日、総会議案書の印刷・製本を自前で実施。業者印刷より会の支出を大幅に縮減。
- ▼ 4月18日、第4回定期総会を開催。総会の模様は別記報告のとおり。
- ▼ 4月27日～28日、東京都退職者協議会(都労連)に関連する退職者組織)学習会が新潟のニュー・グリーンピア津南で開催され、戸枝会計が参加。学習会の内容は報告を参照。
- ▼ 4月29日、中央メーデーに古紙等発送の取組みなどでした。
- 4月27日、28日、東京都退職者協議会(都労連)に関連する退職者組織)学習会が新潟のニュー・グリーンピア津南で開催され、戸枝会計が参加。学習会の内容は報告を参照。
- ▼ 4月29日、中央メーデーに古紙等発送の取組みなどでした。
- ▼ 5月1日、日比谷メーデー。口幹事が会を代表し参加、戸枝会計が取材で参加。
- ▼ 5月10日、都庁退組織拡大強化集会が都本部会議室で開催され、庄司事務局長と戸枝会計が参加。会員拡大が進まない点は各単会共通の悩み。各単会の行事や活動を参考に会員拡大へ頑張りたい。
- ▼ 5月13日、第1回三役会。年間行事日程、会員拡大へ向けた中期的取組み等検討。4名出席。
- ▼ 事務局会議・事務業務は、4月6回、5月3回。主な課題は、総会準備、メーデー準備、機関紙等発送の取組みなどでした。

無責任な原発推進と官邸の無策が深刻な事態を招いた



東京都退職者協議会学習会
(原発事故の現状と課題)

「想定外」だった

政府首脳の無知

地震・津波の強さを「想定外」とするのは、東電の賠償責任逃れのためだが、本当に「想定外」だったのは東電・保安院・官邸が原発の過酷事故発生を想定しておらず、危機管理体制が全くなかったことだ。例えば10Km圏を避難地域に指定したとき、官邸にも福島県にも対象がどこまでかを示す地図すらなかった。

もつと驚いたのは、菅首相をはじめ政府首脳が原発に対し全く無知だったことで、例えば、福島第一の3号機がプルサーマルであることを知らず、諸外国の心配をよそにノホホンとしていたこと。某官房副長官は浜岡

4月27日、28日、新潟のニュー・グリーンピア津南で都退協学習会が開かれました。テーマは「原発事故の現状と課題」(講師・森原秀樹氏)と「税制・医療制度などに対する地公退の取組み」(講師・川端地公退事務局長)でした。当初、保坂展人氏を講師に「政権交代の総括と今後の政治経済の展望」を予定していましたが、学習会が保坂氏の世田谷区長初登壇日と重なったため、急遽講師・テーマを変更しました。今号では「原発事故の現状と課題」を報告します。森原氏は、4月初めに世田谷区長選対事務局長になるまで社民党原発事故対策本部事務局の中心メンバーとして原発事故に対応し、官邸の動きを直接みてきたとのこと。この時期の官邸を中心とした動向についてお話しされました。講演内容は以下のとおりです。

原発がどこにあるのかすら知らなかったことなど、唾然とした。

現場労働者の被曝は深刻な事態

現場の緊急作業基準は100mSvから250mSvに引き上げられた。現場労働者は必死になって働いているが、当初、線量計が行きわたらず、相当数の人の被曝量を把握できていない。20年後30年後に大変な裁判になると思う。

避難地域を同心円の設定にした理由

放射能の流れは地形や風向きに左右されるので、同心円の避難地域設定ではなく、推定放射線量に基づくべきだと再三進言したが、累積の放射線量が深刻化してからようやく動き始め

かった。官邸がパニックを恐れて事実を示さなかった結果、多くの子供たちを健康が害される危険の中に放置してしまった。また、何がどこまで危ないかも示していない。水道水の数値発表時「基準値の3倍だが、健康には影響ない。ただし、子供たちには飲ませるな」と報じたが、何が何だか分からない。「直ちに健康に影響ない」とは長期的健康被害を全く無視した論だ。20年後30年後に問題が出る。今でもレントゲン等の被曝量と比較する報道がある。内部被曝と外部被曝とは次元が異なる。御用学者の良心を疑わざるを得ない。

た。アメリカは80Km圏を在留米人の回避範囲とした。放射線量リスク等をきちんと根拠に上げており、根拠のデータや評価に対する議論ができるが、日本は根拠を全く示していない。保安院は20Kmの根拠は示せないと発言した。根拠なしが証明された。

官邸は早い時期に30Kmを避難圏とする方針だったが、大規模な避難に警察庁等が異論を呈したため、とりあえず屋内待避になった。その結果多くの地域で被曝量が増えた。飯館村の被害は後年問題になるだろう。

データ隠しにより住民の被曝も深刻

日本にも放射能拡散予測のデータは存在したが、公表しな

規制する側(保安院)が推進する側(経産省)の一機関では規制できない。規制強化へ行政の構造を変えることが必要だ。代替エネルギーの考え方を確立する必要がある。アメリカでは原発より自然エネルギーの方が安いことが証明されている。

原発より自然エネルギーの方が安い

規制する側(保安院)が推進する側(経産省)の一機関では規制できない。規制強化へ行政の構造を変えることが必要だ。代替エネルギーの考え方を確立する必要がある。アメリカでは原発より自然エネルギーの方が安いことが証明されている。





東電本社前で「原発即時廃止」をシュプレヒコール



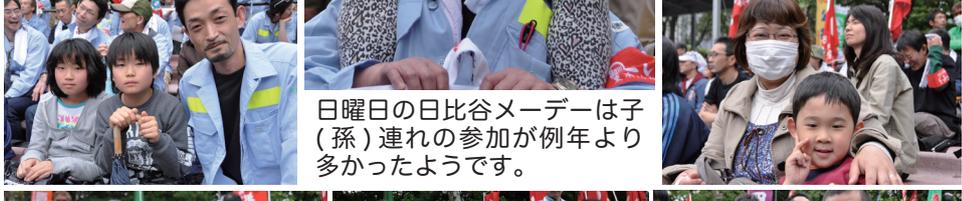
日比谷 メーデー

連合の中央メーデーは3・11大震災の自粛ムードに伴い「東日本震災救援大集会」として開催、式典のみとなりました。東京清掃は本部役員限定の対応としましたので、退職者会も代表参加にしました。

全労協等の日比谷メーデーは、5月1日に例年同様の規模で開催。東京清掃も例年同様日比谷メーデー中心に取組みました。メーデー当日は風が強い曇天でしたが、かえって暑くなく好都合。退職者会は昨年よりさらに多い19名が参加。昨年同様、女性部と青年部の間に独自の隊列を組み、現役の仲間とともに元気に鍛冶橋まで行進しました。



中央 メーデー



日曜日の日比谷メーデーは子(孫)連れの参加が例年より多かったです。

